

三瀬館跡(具教館跡)

昭和16年県史跡に指定。北畠氏は南勢五郡を領有する伊勢の国司であった。具教の代に織田信長軍との激しい合戦(和睦した)後、具教が元亀3年(1572年)~天正4年(1576年)の4年間隠棲し、再起を願った場所と伝えられる。三方を山と川に囲まれた天然の要害。現在は桜と紅葉の名所となり地元に愛されている。



北畠神社

主神は北畠具教とし、北畠家累代の靈や、当時の主家に殉じた家臣たちの靈を祀っている。慶長元年(1596年)、村人が「国司堂」を建て、具教の靈を祭ったことが始まり。神社には具教の像が祀られているが、正保2年(1645年)と記されているので、具教の死後に家臣が生前を偲び作った像ではないかと推察される。

ゆかりの地

胴塚

三瀬館跡の南側に、谷を隔ててやや高くなった所に、北畠具教の胴塚がある。1576年の三瀬の変で不運の死を遂げた具教とその家臣の靈を祀っている。苔むした石を積んだだけの塚であるが、毎年区民による供養が続けられている。



名将剣豪 北畠具教



村上源氏の流れをくむ伊勢国司第8代当主。享禄元年(1528年)~天正4年(1576年)。信長が天下統一を目指す中で大きな障害となった人物が具教である。剣聖・塙原ト伝に師事し、新刀流「奥義:一の太刀」を伝授され、また上泉信綱から新陰流の極意を伝授される。ト伝の新刀流と信綱の新陰流を併合した新しい流派である「伊勢新刀流」の創始者である。一説には自身の暗殺に際し、19人を斬り殺し、100人に手傷を負わせたという。相手方は剣の腕を恐れ、事前に「具教の兵法を封するためには、愛刀の刃を引き、なお抜刀できぬよう結びつけました」との説もある。さらに和歌も好み、文武両道の名将であったようである。

詠歌 花におく霜も涙も染めぬらん
昔の春をしのぶ想いに

茶臼山からの眺望

およそ130mの頂上からは、上三瀬・下三瀬の家並みはもちろん、宮川地区の総門山をはじめ、大紀町の山々が一望できる。戦国の北畠氏の時代にあっては、東の行者山と西に位置する愛宕山とともに、三瀬館を防備する見張り所の役割をしていた。現在は一帯が整備され、町民憩いの場として散策に訪れる人も多い。



東

行者山

紀勢自動車道

三瀬館跡

浅間山

正に山口

南

愛宕山

北畠神社

西



大台町観光協会

TEL.0598-84-1050
<http://web-odai.info>

三瀬砦跡

昭和50年県史跡に指定。現在は土塁と井戸が残るが、南は宮川の絶壁、北と西は深い谷を持つ大谷川(大谷不動からその様子が窺える)に囲まれた要害の地である。もとは北畠氏の被官(守護に従属する国人の地位)であった三瀬氏の代々の居城であったとされる。



慶雲寺

浄土宗の寺院でご本尊は阿弥陀如来。慶長10年(1605年)、三瀬左京祐により建立された。ここには三瀬左京祐の木像が保管されている。毎年お盆には「下三瀬羯鼓(かんこ)踊り」が行われているが、これは元和元年(1615年)大坂夏の陣に出陣し、討死した三瀬左京祐の供養に由来すると言われる伝統芸能行事。現在は「下三瀬羯鼓踊り保存会」が継承し、地域の子どもたちへ伝承するなどの活動を行なっている。



とも のり 北畠具教

豪剣の響き、風雅の余韻。
謂われある地を訪ねれば、
戦国の記憶、ゆらりたゆたう。

茶臼山

館跡から見て東に「茶臼山」「行者山」、西に「愛宕山」、その中間に八幡山があり、これらは狼煙火台のあった見張り所と伝えられる。「茶臼山」や、もっとも東の「行者山」は砦跡からも望むことができ、当時の連絡手段を垣間見ることができる。また、茶臼山からは三瀬谷地区が一望できる絶好の景観ポイントとなっていて、正面には通称「コウモリ山」(蝙蝠の形に見えることからそう呼ばれる)が見える。



三瀬の渡し

昭和初期までは利用されていたが、船木橋開通後廃れた。平成21年に「三瀬の渡し保存会」が結成され、下三瀬と対岸の三瀬川を結ぶ渡しが復活。過去、三瀬氏の貴重な収入源であったという。【問:大台町観光協会】



永徳寺

3代伊勢国司北畠満雅の開基による。当山に安置されている北畠具教の念持仏の「薬師如来」は、大台町の指定文化財である。

北皇日教 ゆかりの地 周遊マップ



合計 約130分 約7km

◎...案内看板

…信号 相津味

W.C. …お手洗い

